



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

シンガポールの政策 観光政策編

2020年3月

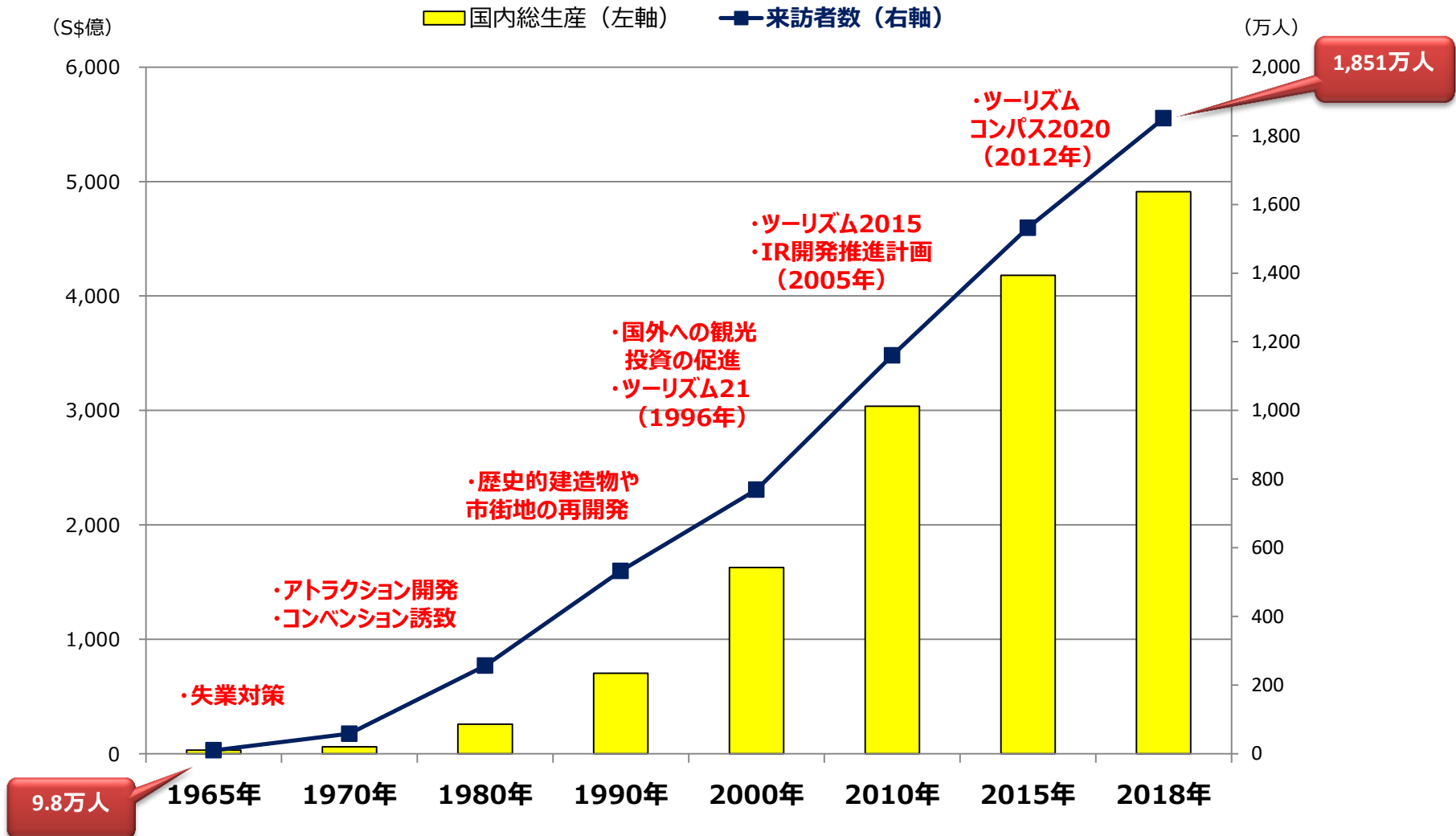
一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

目 次

1. 観光誘客の現状
2. シンガポールと観光の歴史
3. 政府観光局(STB)の取組み
4. 観光資源開発事例
5. 最新の動向

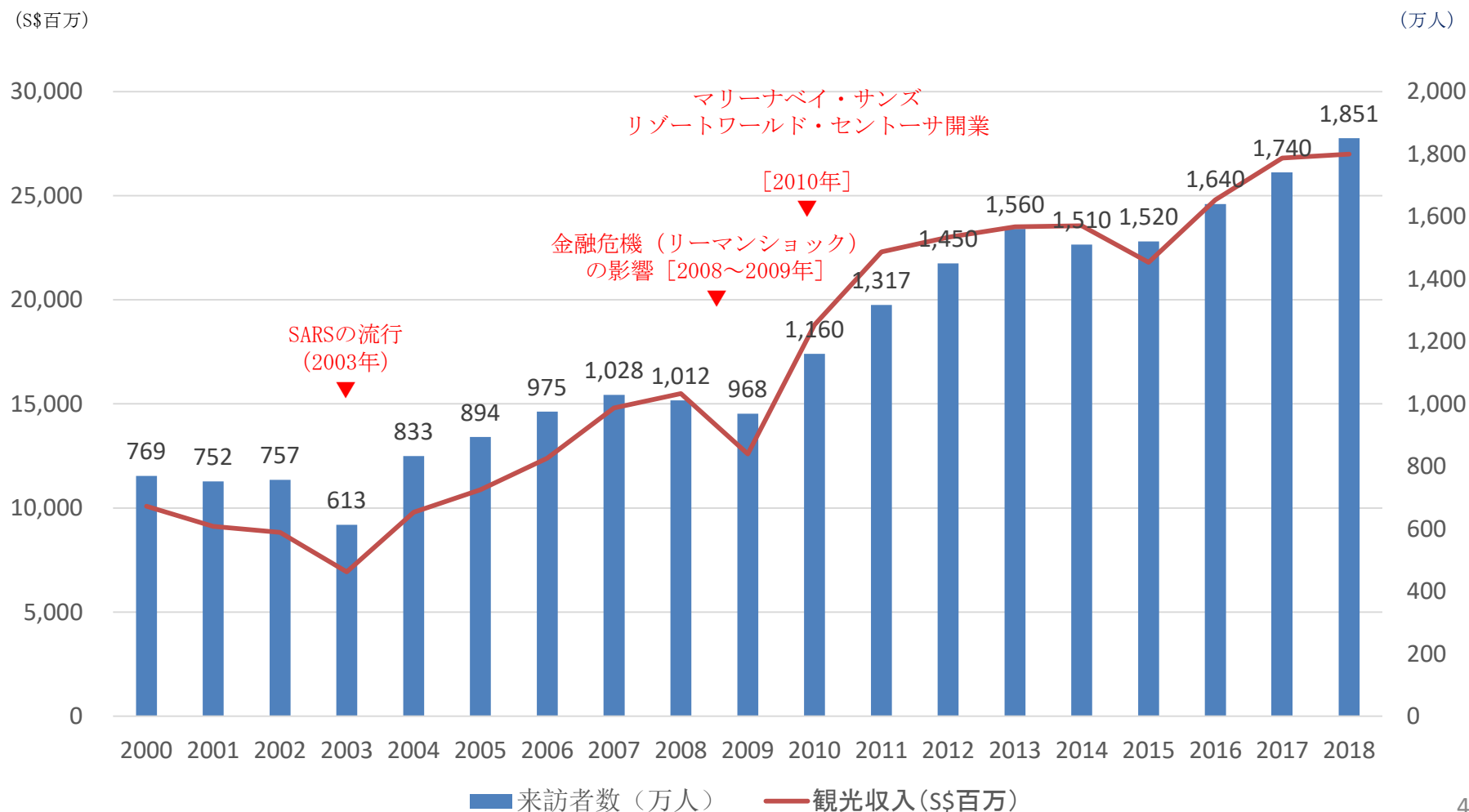
1. 観光誘客の現状

(1) シンガポールへの来訪者数の推移 [1965年（建国）～2018年]



1. 観光誘客の現状

(2) シンガポールへの来訪者数と観光収入の推移 [2000年以降]

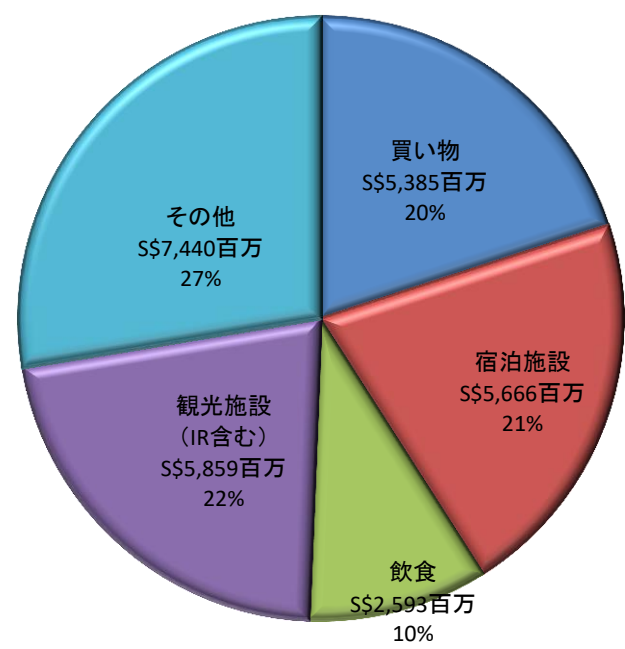
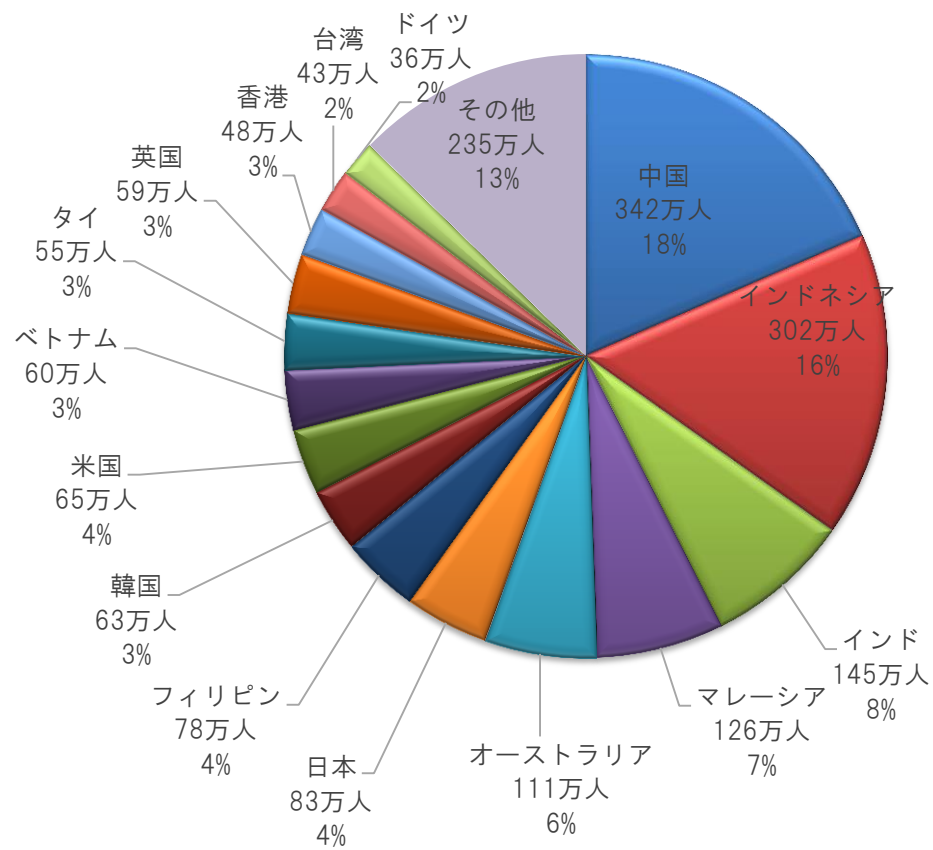


1. 観光誘客の現状

来訪者数の国・地域別内訳
(2018年：1,851万人)

来訪者数の費目別旅行支出額
(2018年：S\$270億)

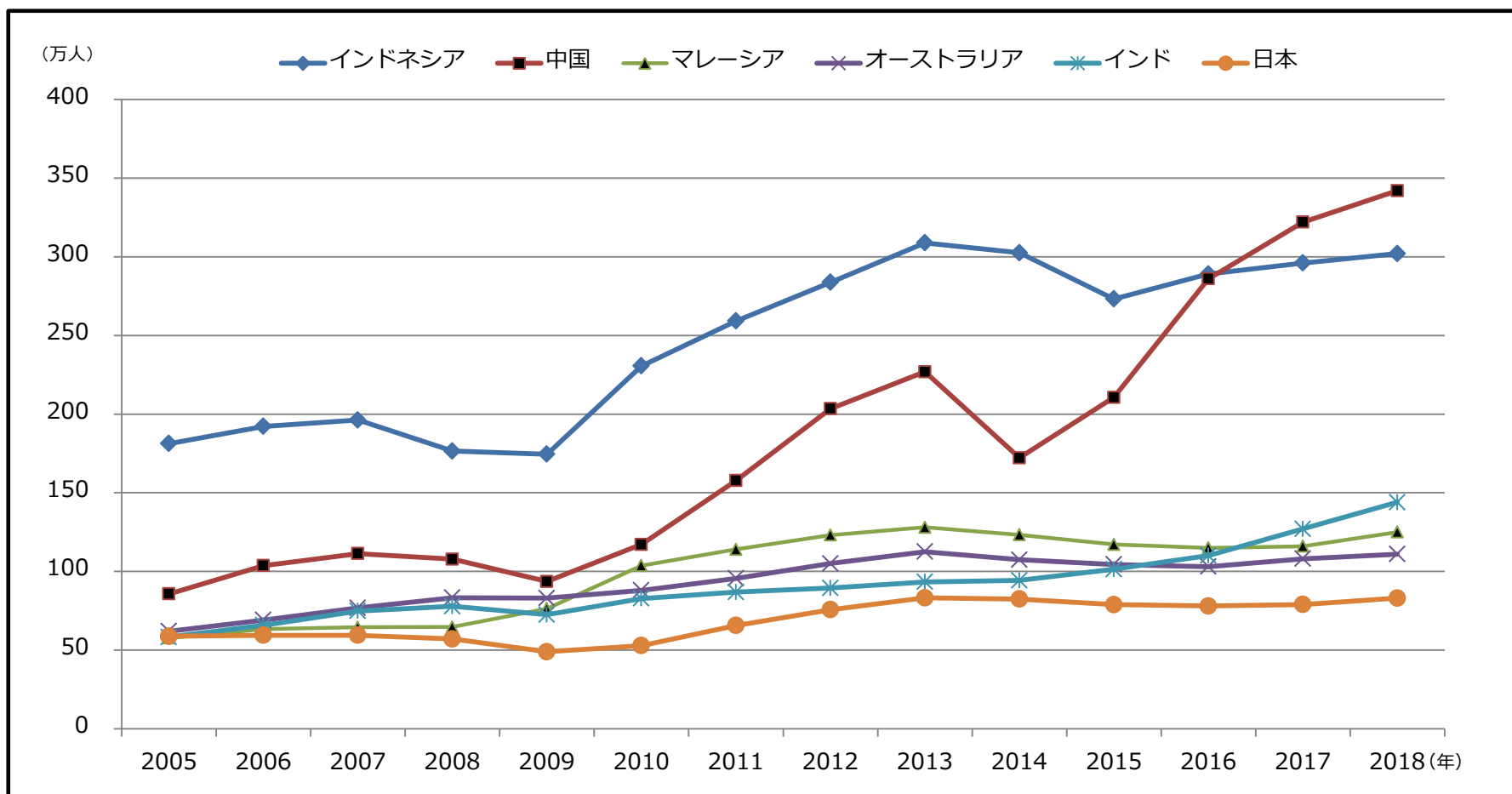
【国 別】



参考：Tourism Year-in-Review 2018 (シンガポール政府観光局)

1. 観光誘客の現状

(3) 国別来訪者数（上位5か国＋日本）の推移 [2018年]



参考: Tourism Year-in-Review 2018 (シンガポール政府観光局)

2. シンガポールと観光の歴史

■ 1960～1980年代

1964年	シンガポール政府観光振興局(STPB:Singapore Tourist Promotion Board)設立
1965年8月9日	マレーシアから分離独立、シンガポール共和国が誕生
1967年	「ガーデン・シティ政策」発表
1971年	「ジュロン・バードパーク」オープン
1972年9月1日	セントーサ開発公社(SDC:Sentosa Development Corporation)設立
1972年9月15日	マーライオン像の設置
1973年6月23日	「シンガポール動物園」開園
1974年	シンガポール・コンベンション・ビューロー設置
1978年	外国人観光客が年間200万人を記録
1981年12月29日	チャンギ国際空港開港
1986年	「観光資源開発計画」発表
1987年11月7日	MRT(Mass Rapid Transit)開業



2. シンガポールと観光の歴史

■ 1990年代以降

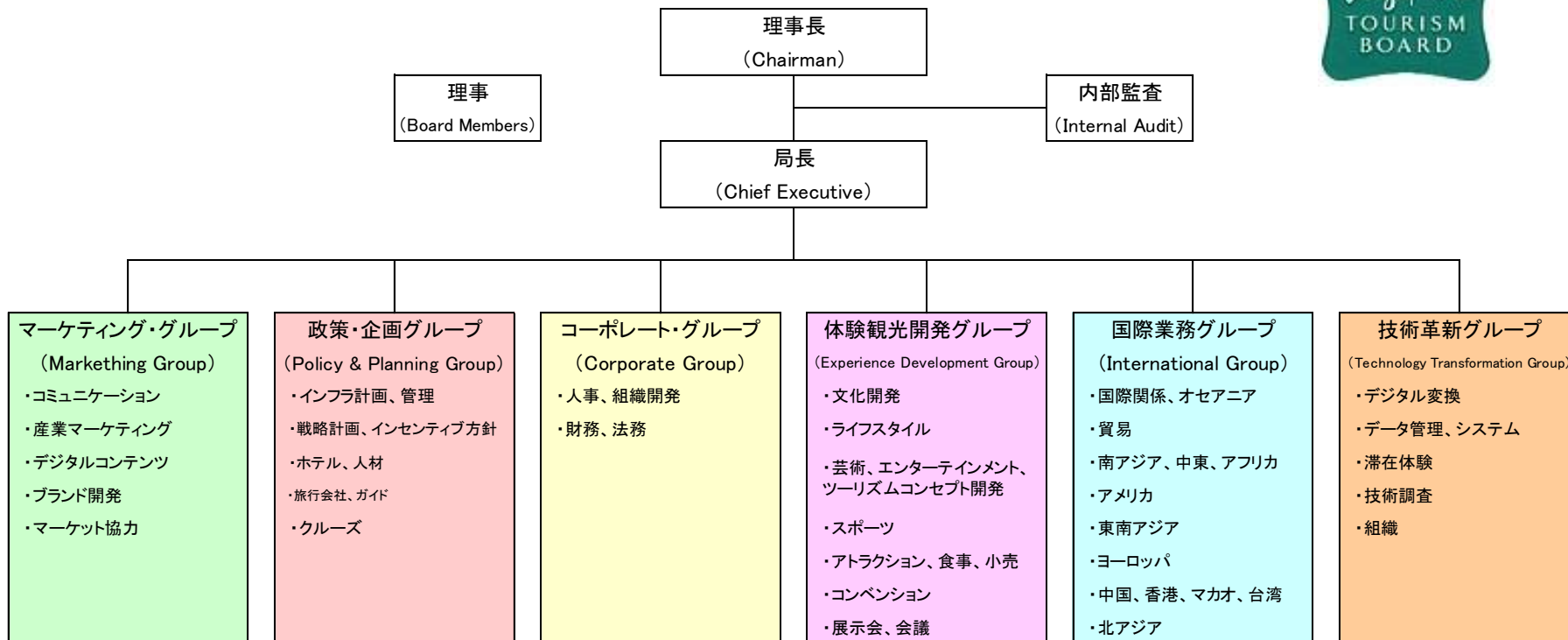
1994年	「ツーリズム・アンリミテッド」発表
1996年7月	「ツーリズム21」発表
1997年	インドネシア領ビンタン島に両国共同でリゾート施設建設
1998年	シンガポール政府観光振興局からシンガポール政府観光局 (STB: Singapore Tourism Board)に名称変更
2002年9月15日	マーライオンが現在の位置に移転完了
2002年	「セントリーサ島再開発10か年計画」発表
2005年	「ツーリズム2015」、「IR開発推進計画」発表
2010年3月5日	新キャンペーン「Your Singapore」発表。ホームページ一新
2012年	「ツーリズム・コンパス2020」発表
2017年	ブランド「Passion Made Possible」発表



3. 政府観光局 (STB) の取組み



(1) シンガポール政府観光局 (STB) の概要



出典:シンガポール政府観光局 (STB) ホームページ

シンガポール観光法
(Singapore Tourism Act)
に基づき、1964年に設立。

3. 政府観光局 (STB) の取組み



(2) 観光振興計画「Tourism 2015」

《目標》 2004－2015年で観光収入3倍、来訪者数2倍

	2004年	2015年目標	2015年実績
観光収入 (S\$億)	98	300	218
来訪者数 (万人)	833	1,700	1,520
観光業務雇用者数	150,000	250,000	283,578

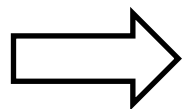
TOURISM 2015



《重点分野》 3つの重点分野

- ①ビジネス→MICE誘致のため各種優遇制度の整備
- ②レジャー→マリーナベイエリアの整備、F1誘致
- ③サービス→医療ハブとしての医療観光産業の振興

《施策》 S\$20億の観光開発基金の設立



インフラ整備、大規模なイベントや旅行商品の開発を支援

3. 政府観光局（STB）の取組み



(3) 「Tourism Compass 2020」

「Tourism 2015」を補完する観光振興のためのロードマップ

《 4つの方針 》

- ①常に新しいオリジナル&エキサイティングなツーリズム
 - ・カランリバーサイドの再開発：公園、ホテル等を新設
 - ・マンダイ地区：生物多様性を学べる施設の拡充
 - ・ジュロンレイクサイド：家族向け娯楽施設の整備
- ②既存施設の再興・再開発
 - ・チャイナタウンのWi-Fi環境整備、レストラン街の改装
 - ・世界最大級のショッピングエリアとして、オーチャードロードを再開発
- ③国内のみならずアジアの活力を取り込む
 - ・アジアの中心となるクルーズ寄港地を目指したインフラ整備の実施
- ④国際競争力の向上
 - ・ベストホテル大臣賞、ベストレストラン大臣賞などを創設し、ホテル・観光業の人材育成を図る

3. 政府観光局 (STB) の取組み



(4) MICE産業の振興

MICE振興の中期振興計画「MICE 2020 Roadmap」

「MICEとは？」

Meeting, Incentive, Convention, Exhibitionの頭文字をとった造語。会議・研修・セミナー、招待・優待・視察、大会・学会・国際会議、展示会を核としたビジネス・トラベルの一形態。

「3つの主なコンセプト」

① Connected City

ビジネス旅行者がスムーズに行動できる。

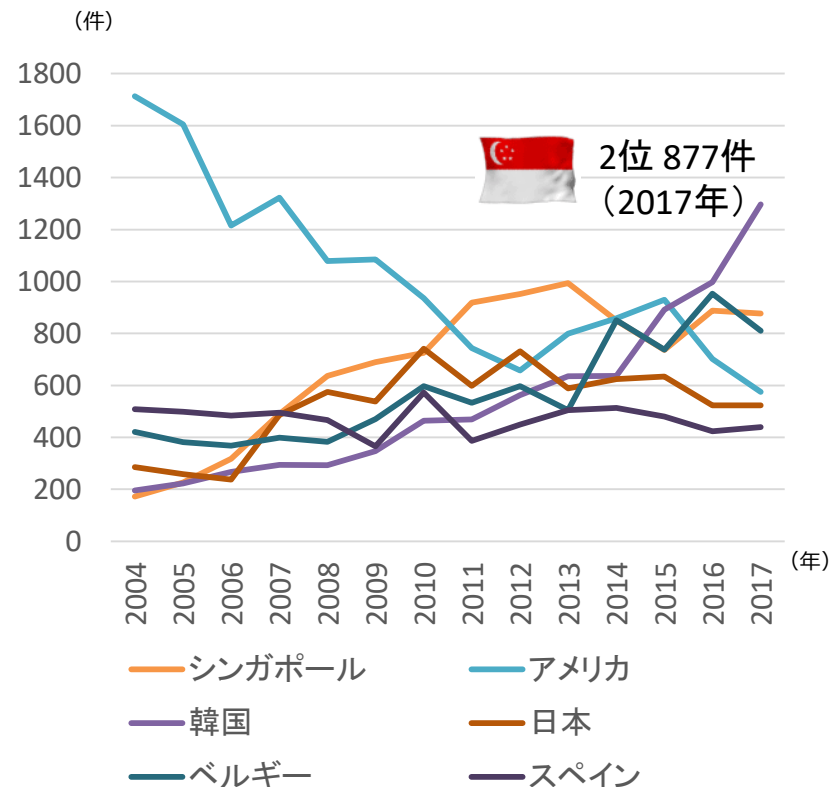
② Singapore MICE Experience

ビジネスイベント内外での体験プログラムの提供。

③ MICE HQ.SG

MICEに関するノウハウ、企業、協会の集積。

国際会議開催上位国の件数推移



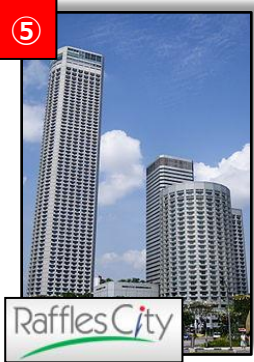
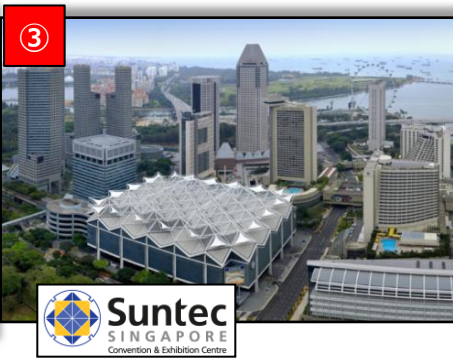
出典: JNTO国際会議統計・Union Of International Associations(UIA)2017・STBウェブページ

3. 政府観光局 (STB) の取組み

(5) シンガポールの主なMICE施設



展示会・会議施設	規模 (m ²)
① マリーナ・ベイ・サンズ	120,000
② シンガポール・エキスポ	109,000
③ サンテック・コンベンションセンター	34,000
④ リゾートワールド・セントーサ	10,900
⑤ ラッフルズシティ・コンベンションセンター	6,500
(参考) 東京ビックサイト	80,000



→最優秀MICE都市賞 1 位に選ばれ続けている

出典:Your Singapore HP・JETRO「シンガポール経済の動向」、各施設HP、クレアレポート、クレアメールマガジン

3. 政府観光局 (STB) の取組み



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

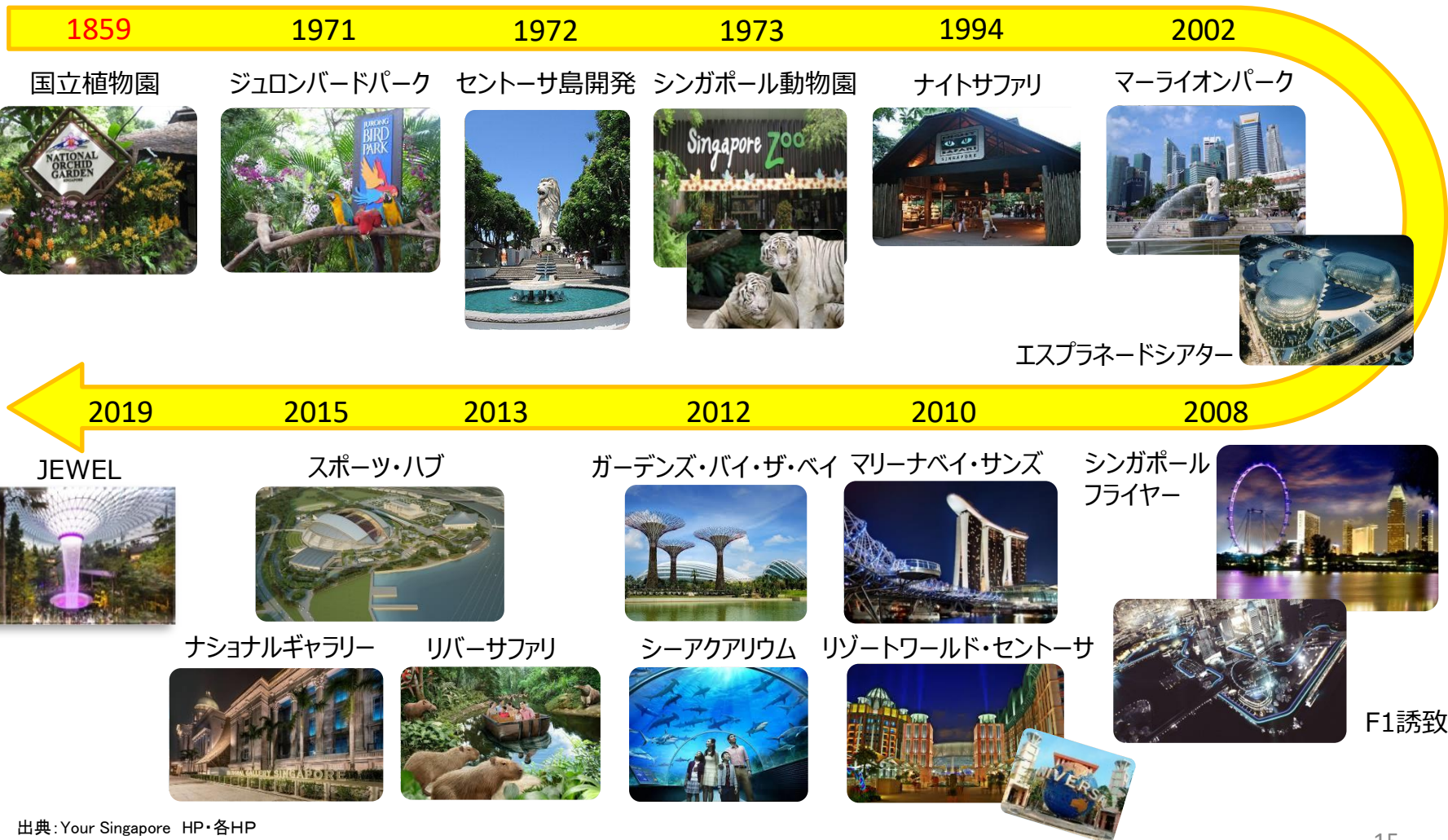
(6) Passion Made Possible

- 観光客誘致と投資誘致共通のスローガン
- 「シンガポールは情熱と可能性が現実になる場所」というコンセプトのもと、ストーリー性を重視
- ローカル文化を体験できるツアー等を提案



4. 観光資源開発事例

(1) シンガポールの観光資源開発

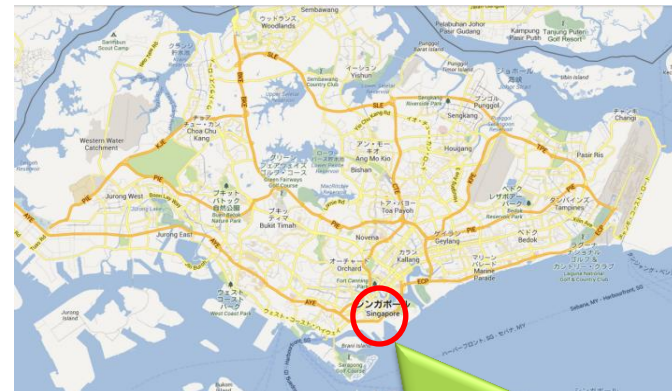


4. 観光資源開発事例

(2) マリーナベイ・サンズ



開発面積	155,000㎡	
事業主体	ラスベガスサンズ社 (米)	
総開発費用	S\$75億	
営業開始	2010年4月27日 (一部開業)	
カジノ売上高(S\$)	2011年	36億7,200万
	2012年	36億500万
	2013年	37億1,300万
	2014年	40億7,000万
	2015年	40億5,800万
	2016年	38億6,262万
	2017年	43億5,300万
主要施設		
MICE施設	面積	120,000㎡ (5階)
	展示ブース	2,000ブース
	会議室	250会議室
	収容可能数	45,000人
サンズホテル	客室数	2,561室 (55階)
	延べ床面積	20,690㎡
	客室稼働率	96.7%(2016年)
ショッピングモール	店舗数	270店舗 (2016年)
カジノ	延べ床面積	15,000㎡
	ゲーム台数	2,439台
	スペース	地上3階、地下1階



ターゲット
 ビジネス・コンベンション客



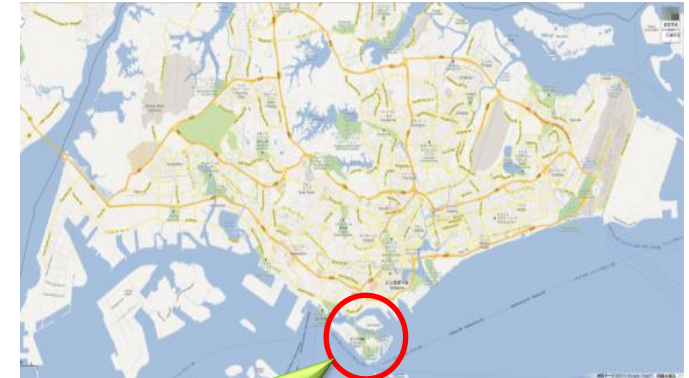
出典: Marina bay sands HP・Las Vegas Sands Corp発表資料
 JETRO「シンガポール経済の動向」より作成

4. 観光資源開発事例

(3) リゾートワールド・セントーサ



開発面積	490,000㎡	
事業主体	ゲンティングループ (マレーシア)	
総開発費用	S\$66億	
営業開始	2010年1月20日 (一部開業)	
カジノ売上高(S\$)	2011年	32億 81万
	2012年	29億3,139万
	2013年	28億4,552万
	2014年	28億6,038万
	2015年	23億9,936万
	2016年	22億2,594万
	2017年	23億9,045万
主要施設		
ユニバーサル スタジオ シンガポール	面積	200,000㎡(USJ:540,000㎡)
	アトラクション数	25アトラクション 内18アトラクションは世界初
マリンライフ・パーク	S.E.Aアクアリウム	
	アドベンチャー・コブ・ウォーターパーク	
6つのホテル	ホテル・マイケル	
	フェスティブ・ホテル	
	クックフォード・タワー	
	ハードロックホテル・シンガポール	
	スパ・ヴィラ	
カジノ	エクアリアス・ホテル	
	延べ床面積	約15,000㎡
	ゲーム台数	2,160台



ターゲット
家族・レジャー客



4. 観光資源開発事例

(4) ガーデنز・バイ・ザ・ベイ

総工費	S\$10億		
オープン	2012年6月29日		
総面積	約101ha		
施設	エリア	規模	特徴
	ベイ・サウス・ガーデン	54ha	18本のスーパーツリー フラワードーム クラウドフォレスト
	ベイ・イースト・ガーデン	32ha	ウォーターガーデン
	ベイ・セントラル・ガーデン	15ha	3kmのウォーターフロントの歩道



都市構想のシフト

ガーデン・シティ構想



シティ・イン・ザ・ガーデン構想

出典: Gardens By the Bay HP・CLAIRメールマガジン(2012年10月配信)より作成

4. 観光資源開発事例

(5) シンガポール・スポーツ・ハブ

総工費	S\$13.3億	
オープン	2015年7月26日	
総面積	約35ha	
施設	施設名	特徴
	ナショナル・スタジアム	最大収容人員：55,000人
	インドア・スタジアム	最大収容人員：12,000人
	OCBC アクアティック・センター	プール：50m×2、25m×1 最大収容人員：6,000人
	OCBCアリーナ	バスケットボールやバドミントン、卓球など 様々なスポーツを楽しめる多目的体育館 最大収容人員：3,000人
	ウォーター・スポーツ・センター	500mのレガッタ・コース（6レーン）
	カラン・ウェーブ・モール	4.1haの広さを持つショッピングモール



4. 観光資源開発事例

(6) JEWEL

総工費	S\$17億	
オープン	2019年4月17日	
総面積	約3.5ha	
施設	施設名	特徴
	資生堂フォレストバレー	アジア最大の屋内庭園 (22,000㎡)
	HSBCレインボルトテックス	世界で最も高い室内滝 (40m)
	JW360°	JR東日本によるセレクトショップ
	空港関連施設	アーリーチェックインカウンター、手荷物保管サービス、ラウンジ、エアポートホテルを完備



4. 観光資源開発事例

(7) クルーズ船の誘致推進



名称：マリーナベイ・クルーズセンター・シンガポール

正式オープン：2012年10月22日

総工費：S\$5億

ターミナルの広さ：28,000㎡

バース数：2（同時に2隻寄港可能）

バース1…最大延長335m、喫水11.5m

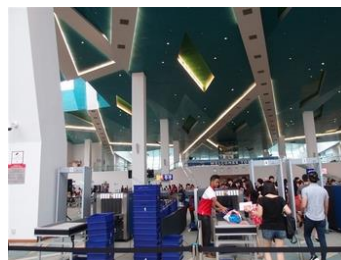
バース2…最大延長360m、喫水11.3m

最大乗客数：6,800人 ※2隻同時寄港時

チェックインカウンター数：80 出入国審査カウンター数：40

運営：SATS-Creuers Cruise Service社（所有はシンガポール政府観光局）

※チャンギ空港を運営しているSATS社と国際的なクルーズ船の運営会社である Creuers del Port de Barcelona S.A.社との合弁会社。



4. 観光資源開発事例

(7) クルーズ船の誘致推進



2020年までに
年間380万人
の利用者獲得を目指す！

フライ&クルーズ

海外からの観光客を増やすため、飛行機と船旅を
組み合わせた旅行。

シンガポールでは、クルーズ船の到着後、ターミナルで
同日に出発するフライトのアーリーチェックインが可能。
スムーズにチェックインして荷物を預け、搭乗券を受け
取ることができる。

手荷物を預けたまま、フライトの時間まで市内観光が
可能。

5. 最新の動向

(1) 2019年の展望



【プラス要因】

- ・ アジア太平洋地域の観光需要の増加
- ・ シンガポールへの航空便の利便性向上

【マイナス要因】

- ・ 世界的な政治経済の不透明さ
- ・ 地域間の競争

5. 最新の動向

(2) セントーサ島の再開発

TWO ISLANDS TO BE SPLIT INTO FIVE ZONES

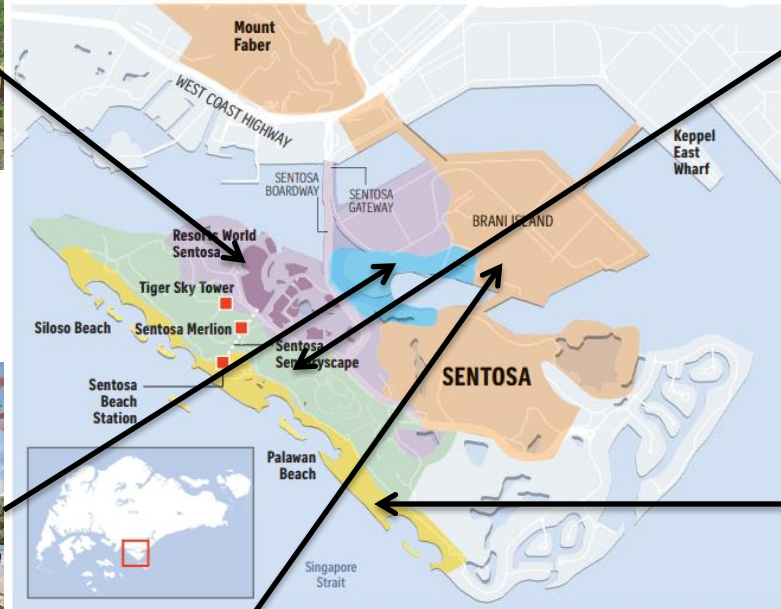
- 1 Vibrant Cluster**
It spans the two islands, will have large-scale attractions.
- 2 Island Heart**
It will feature hotels, conference spaces, dining and retail shops.
- 3 Waterfront**
On Pulau Brani, it will house a "futuristic" Discovery Park.
- 4 Ridgeline**
It will connect green spaces from Mount Faber to Mount Imbiah and feature nature and heritage attractions.
- 5 Beachfront**
It will be rejuvenated with a water show, fairgrounds and other attractions.



①Vibrant Clusterエリア
USSへの新アトラクション建設、水族館のリニューアル



②Island Heartエリア
屋内外のプレイスペースやアトラクションを開発



③Waterfrontエリア
近未来型の公園の整備



④Ridgeline エリア
自然を感じられるトレイルルートの整備



⑤Beachfrontエリア
ウォーターショーなどにより活気を演出

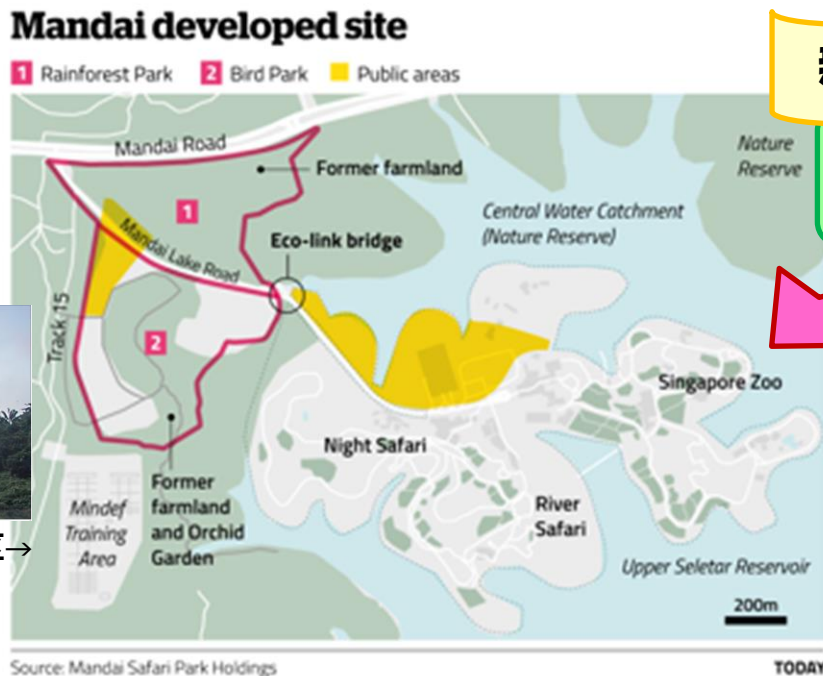
出典: Sentosa Development Board
Straits Times

5. 最新の動向

(3) 動物園周辺の再開発 (エコツーリズム・ハブ)

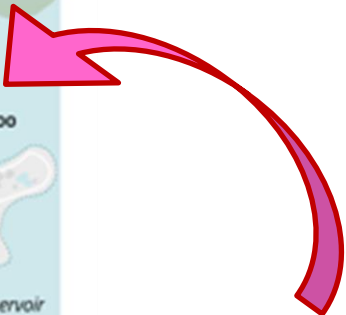


マンダイ地区→



新規建設

レインフォレストパーク
2023年までにオープン予定



2020年
移転予定



シンガポール動物園
1973年オープン



ナイト・サファリ
1994年オープン



リバー・サファリ
2013年オープン



ジュロン・バードパーク
1971年オープン

～ ご清聴ありがとうございました ～

E N D



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore